



防災だより

（発行元）愛南町消防本部防災対策課 Tel.72-0131



11月5日は「津波防災の日」です。

1854年11月5日の安政南海地震（M8.4）で和歌山県を津波が襲った際に、稲に火をつけて、暗闇の中で逃げ遅れていた人たちを高台に避難させて命を救った、「稲むらの火」の逸話にちなんでいます。全国各地で、津波防災の日を中心に地震津波防災訓練が行われます。この日を機会に、あらためて地震や津波への対策を確認しましょう。

● 津波からの避難のポイント

■ 「地震の揺れから身を守る」

○津波の前に、地震の揺れで怪我をしないよう、揺れを感じたらまずは 安全な場所【物が落ちてこない、動いてこない、倒れてこない場所】で、身を守る行動【身を低く、頭を守り、動かない】をとりましょう。



■ 「揺れがおさまったらすぐ避難」

○地震の揺れが小さい時でも津波が起きる場合があります。弱い揺れでも長い時間揺れを感じたとき、津波警報等が発表されたときなどは、すぐに避難しましょう。
○津波の前触れとして、必ず引き潮があるとは限りません。直ちに津波が来るものとして、すぐに避難しましょう。

■ 「『遠く』よりも『高く』へ避難」

○ハザードマップで浸水区域や津波一時避難場所を確認しておきましょう。
○すでに浸水が始まり、津波一時避難場所に避難する時間的余裕が無い場合は、高台や近くの頑丈な高い建物に逃げることを考えましょう。

■ 「避難は原則徒歩で」

○要配慮者等の避難や災害後に使用する車両を優先するなど、地域で話し合い、避難に使用する車両を決めておきましょう。



■ 「一度避難したら戻らない」

○津波は繰り返し襲ってきて、第1波よりも第2波以降の方が大きくなる場合があります。津波警報が解除されるなど、安全が確認できるまでは高台に避難しましょう。

災害に備えましょう！

とはいいつも…

災害に備えることが大事だけど、なかなか手が出ない。何を備えたらいいかわからない。防災備品を備えたけど使い方がわからない。どこに置いたか忘れてしまった。災害時に自分の周りでどんなことが起こるのか、イメージしにくい。

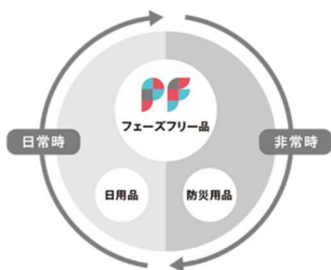


「防災って難しい！」と感じられている方もいると思います。

そこで「フェーズフリー」の考えのもと、災害に備えてみてはどうでしょうか？

備えない防災「フェーズフリー」

フェーズフリーとは日常時と非常時の境をなくして、普段から使っているものを、災害時にも役立てようという考え方です。



いつもの生活で便利
もしもの時には役に立つ
そんなモノやサービスを活用

「フェーズフリー」5つの原則

常活性: どのような状況でも利用可能
日常性: 普段の生活でも使える
直感性: 誰でも使い方がわかる
触発性: 使用することで災害に対するイメージができる
普及性: 誰でも気軽に参加し広めることができる

フェーズフリーはどんなものがある？

4つのカテゴリに分けていくつかご紹介します。

1. 防災や仕事、趣味で使うもので、フェーズの区別なく利用できるもの

防災用品やキャンプ、アウトドアなどで使うもので日常時・非常時にも使えるもの
例) テント、寝袋、発電機、LED ランタンなど

2. 利用方法の工夫でフェーズフリーの価値が発揮できるもの

日用品などをストックし、期限が近いものから消費して新しいものを補充することで管理できるもの

例) 非常食(カップ麺やレトルト食品など)、カイロ、乾電池など

3. 日常時・非常時ともにフェーズフリーの価値が発揮できるもの

普段使用しているもので非常時にも使えるもの

例) スマートフォン、モバイルバッテリーなど

4. 非常時に日常時とは異なる用途でフェーズフリーの価値が発揮できるもの

普段使用しているものを非常時に別の機能として使うもの

例) プラグインハイブリッド車、防災ベンチ、防災拠点施設など

何気なく利用しているものでも、自らの気づきによって非常時にも活用できるかもしれません。まずは日常時と非常時の意識の垣根を取り除いてみてはどうでしょうか？